

平成26年度事業報告

社会福祉法人 ロザリオの聖母会
共同生活援助事業所
ナザレの家あさひ

I 事業の概要

1 概括

今年度は、まず昨年度から繰越となっていた「折戸ハウスⅠ」「折戸ハウスⅡ」と2箇所計11名分の新規開設を行うことが出来た。建物のタイプとしてもワンルームタイプの建物となっており、これで事業所全体としては、さらに居住環境の選択肢が広がったと言える。建物の改修に関しても、大割ハウスの浴室・洗面所・トイレの改修・増築工事、対馬ハウスのトイレ・洗面所の改修工事、臨時で横大道ハウスの屋根の改修工事を行った。改修工事に関しては、より良い住環境の整備を今後も順次計画していきたい。また、当初の計画では、矢指ハウスの浴室改修工事、生沼ハウスの世話人室増設工事を行う予定であったが、次年度以降に引き伸ばすこととなった。こちらに関しても、来年度しっかりと行っていきたい。

次に、利用者関係については、今年度は聖家族園からの受け入れを行うことが出来た。ここ数年は法人内の入所施設からの受け入れが無かったため、今後も利用者の意向を尊重し、希望があれば一緒に考えていきたい。また、今年度は昨年度に引き続き触法障害者の方の利用があった。相談としても受けることが多くなっており、社会的に生活のしづらさを抱えていることを感じさせられた。そういった意味では「光のあたりにくい人々とともに歩む」と言う法人理念に基づき、今後も当事業所として出来る事を考えていきたい。

最後に、今年度の定員増により、利用者83名・職員45名と全体で100名を超える事業規模になっており、来年度も1箇所はホームを増やす計画もあり、今後も規模がさらに大きくなることが予想される。そういった意味では、中・長期的にも事業所の組織体系や職員の適正な配置のあり方に関しても次年度以降の課題として検討していきたい。

2 施設（事業所）所在地 千葉県旭市野中4017

3 施設（事業所）開設年月日 平成18年10月1日

4 沿革

1996年（平成8年）4月1日	福祉ホーム野中ハイツ開設	定員10名
1997年（平成9年）1月23日	若衆内ハウス開設	定員15名
2003年（平成15年）4月1日	横大道ハウス開設	定員21名
2004年（平成16年）10月1日	中川ハウス開設	定員25名
2004年（平成16年）11月1日	萩園ハウス開設	定員29名
2005年（平成17年）5月1日	東足洗ハウス開設	定員34名
2005年（平成17年）9月1日	立野ハウス開設	定員38名
2006年（平成18年）4月1日	グループホーム支援室開設	
2006年（平成18年）10月1日	ケアホーム旭・グループホーム旭事業所指定 共同生活介護・共同生活援助事業開始 野中ハイツ 福祉ホームからグループホームに変更 東町ハウス開設	定員44名
2007年（平成19年）4月1日	大割ハウス開設	定員49名
2007年（平成19年）7月1日	グループホーム支援センター開設 荒井 隆一が所長となる	
2007年（平成19年）8月1日	対馬ハウス開設	定員53名

2008年(平成20年)	3月1日	下立ハウス開設	定員58名
2008年(平成20年)	7月1日	東町ハウス転居	広原ハウスに改名
2009年(平成21年)	4月1日	野中ハイツ定員10名から、野中ハイツⅠ定員5名・野中ハイツⅡ定員5名に変更。	
2009年(平成21年)	9月1日	生沼ハウス開設	定員61名
2011年(平成23年)	6月1日	矢指ハウス開設	定員65名
		震災に伴い立野ハウス転居(廃止)	
		西足洗ハウス開設	
2012年(平成24年)	1月1日	小割ハウス開設	定員67名
2012年(平成24年)	2月1日	仲町ハウス開設	定員72名
2012年(平成24年)	5月7日	下立ハウス	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	6月7日	野中ハイツ	震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	11月5日	若衆内ハウス	世話人室・喫煙室増設
2014年(平成26年)	3月27日	中川ハウス・対馬ハウス・東足洗ハウス・萩園ハウス	自動火災報知設備設置
2014年(平成26年)	3月31日	下立ハウス	スプリンクラー設備整備
2014年(平成26年)	4月1日	折戸ハウスⅠ開設	定員77名
2014年(平成26年)	4月1日	折戸ハウスⅡ開設	定員82名
2014年(平成26年)	7月16日	横大道ハウス定員6名から定員7名に変更	定員83名
2015年(平成27年)	2月1日	横大道ハウス定員7名から定員6名に変更	定員82名
2015年(平成27年)	2月1日	折戸ハウスⅠ定員5名から定員6名に変更	定員83名

5 実施事業及び利用者数

5-1 障害者総合支援法による指定事業

(1) 共同生活援助事業(介護サービス包括型)

(定員83名、平成27年3月31日現在の利用者数:78人)

- ア 野中ハイツⅠ(定員男性5人、平成27年3月31日現在の利用者数:5人)
千葉県旭市野中
- イ 野中ハイツⅡ(定員女性5人、平成27年3月31日現在の利用者数:5人)
千葉県旭市野中
- ウ 若衆内ハウス(定員男性5人、平成27年3月31日現在の利用者数:5人)
千葉県旭市ニ
- エ 横大道ハウス(定員男性6人、平成27年3月31日現在の利用者数:6人)
千葉県旭市三川
- オ 中川ハウス(定員男性4人、平成27年3月31日現在の利用者数:4人)
千葉県野中
- カ 萩園ハウス(定員女性4人、平成27年3月31日現在の利用者数:4人)
千葉県旭市萩園
- キ 東足洗ハウス(定員男性5人、平成27年3月31日現在の利用者数:5人)
千葉県旭市東足洗
- ク 西足洗ハウス(定員男性4人、平成27年3月31日現在の利用者数:4人)
千葉県旭市西足洗
- ケ 広原ハウス(定員男性6人、平成27年3月31日現在の利用者数:5人)
千葉県旭市野中

- コ 大割ハウス（定員女性5人、平成27年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中
- サ 対馬ハウス（定員4人、平成27年3月31日現在の利用者数：3人）
千葉県旭市野中
- シ 下立ハウス（定員男性5人、平成27年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中
- ス 生沼ハウス（定員女性3人、平成27年3月31日現在の利用者数：3人）
千葉県旭市イ
- セ 矢指ハウス（定員4人、平成27年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中
- ソ 小割ハウス（定員男性2人、平成27年3月31日現在の利用者数：1人）
千葉県旭市野中
- タ 仲町ハウス（定員男性5人、平成27年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市ロ
- チ 折戸ハウスⅠ（定員6人、平成27年3月31日現在の利用者数：4人）
千葉県旭市野中
- ツ 折戸ハウスⅡ（定員5人、平成27年3月31日現在の利用者数：5人）
千葉県旭市野中

6 職員構成

別紙1のとおり

7 組織図

別紙2のとおり

8 26年度重点目標実施報告

8-1 福祉・医療情勢を注視しつつ施設・事業所の安定的運営に努めることについて

ア 情勢（障害者総合支援法や医療・介護保険制度）を踏まえた施設・事業所の課題と展望について

今年度の大きな事としては、グループホームの一元化ということが挙げられる。今まであったケアホーム・グループホームと言うような事業が、グループホーム1つになり、その中で「介護サービス包括型」と「外部サービス委託型」から選択する形になった。その中で、ナザレの家あさひとしては、基本的には今までの一体型の事業所指定とほとんど変わらない運営を出来る仕組みとなる「介護サービス包括型」と言う形態を選択する事とした。また、夜間支援体制に関しても「夜勤」「宿直」「連絡体制」を明確に分ける加算に変わったことも大きな変化として挙げられる。今後も、グループホームに関しては障害を持たれた方の居住の場として大きな役割が期待をされており、特に高齢化・重度化に対応していくことが求められている。そういった意味では、ナザレの家あさひにおいてもしっかりと対応できるように努力をしていきたい。

イ 計画的な人事異動及び中間管理職の育成・登用について

今年度は、ようやく主任・副主任を配置することが出来、とりあえずとしての組織体制を作ることが出来た。また、運営における役割も徐々にそれぞれの分担の整理も行うこと

が出来たことは良かったと考える。ただ、事業所の規模からすると、常勤職員の数や中間層の職員は十分とは言えないため、今後も適正な体制を構築していきたい。

ウ 安定的な人材確保について

今年度は、大学などを周り、チラシを置かせてもらうなどにも取り組んだが、人材の確保までには至らなかった。しかし、学生の法定実習を2名受けることも出来、今後もこのような中から就職につなげていけるような事も考えていきたい。

エ 施設・設備の老朽化や環境改善対策の中・長期計画と資金確保について

老朽化に伴う大割ハウスの浴室・脱衣場改修工事や利用者の性別や障害特性の変化に伴う対馬ハウスのトイレ改修工事、利用者定員の増員に伴う横大道ハウスの居室及び世話人室の改修工事を行った。しかし、生沼ハウスの世話人室増築や矢指ハウスの浴室改修については、設計や器具などの見直しや資金の確保などの諸事情を勘考し次年度へ持ち越すこととした。

建物や設備の老朽化対策については、当事業所にあっては必須であるため、次年度以降も計画的に行っていきたいと考えている。同時に震災や風災などのような自然災害にも早急に対応できるよう修繕に係る積立も今年度同様継続していけるよう努力していきたい。

オ 社会福祉法人会計基準への円滑な移行及びチェック体制の強化・充実について

新会計基準への移行については、規程をはじめ勘定科目の解釈や仕訳の方法など、基本的な知識の習得からであったため、今年度の会計業務は決して容易ではなかったと言える。しかし、法人本部が中心となり資料やデータベース等の準備をすすめてくれたため、何とか処理を行うことができた。次年度以降については、まだなお習得しなければいけない課題が多くあるため、引き続き、知識や技術的等の習得に努めていきたい。

8-2 社会福祉法人に求められる課題を踏まえつつ利用者等のサービスの質向上に努めることについて

ア 地域福祉・医療への取り組みについて

今年度は、触法障害者の利用希望ニーズが継続して地域関係者からあり、受け入れの対応をしている。保健・医療・福祉関係者の多職種チームアプローチだけではなく、弁護士・保護観察官との連携も強化して支援を行った1年間であった。

また、重症心身障害のある人が利用できるように対馬ハウスを整備した。他法人の訪問看護事業者や海上療養所との医療連携体制を活用して、利用者の生活の安定を図った。

1年間で外部（病院 施設 通過型グループホーム 在宅）より新たな入居者7名の入居があった。法人内においても、新たな入居者3名（聖家族園1名 海上療養所2名）の入居があった。

イ 権利擁護、虐待防止、差別解消に向けた取り組みについて

世話人会議において、虐待防止について講義を受ける機会や、世話人同士でグループディスカッションをする機会を設けて、意識を高める機会を作った。その結果、日頃の支援から自分の支援方法が虐待にあたっていないかと意識する機会が増え、ホーム内のミーティング等で意見を交わす機会が増えている。

同一法人でのサービスの抱え込みをしない事を基本に、様々な関係者がグループホーム

に携わっているため、外部関係者が入ることで抑止力につながったり、利用者の訴え先が複数になり選択出来ることで、長期化や深刻化しない環境が整ってきている。

ウ 専門性や特徴のあるサービスの実施について

行動援護対象者の継続的な支援を行うため、CASより臨床心理士を派遣してもらいケース会議においてアドバイスを受けている。

新たに対人面での問題が予想される利用者に対応できるように、ワンルームタイプの折戸ハウスⅠ・Ⅱを開設した。今後は、単身生活へのステップアップの場としても活用していきたい。

医療連携体制（海上療養所）・ACT（国保旭中央病院精神科）などの多職種でのチームアプローチが継続して行える環境が整っているため、医療的ケアが必要な障害のある人や触法障害者の受け入れが出来る体制が徐々に整っている。

エ サービス提供上必要な事項の全体的点検と基本的事項の順守について

今年度の課題であったサービス等利用計画については、100%作成することが出来た。ただ、サービス等利用計画と連動しての個別支援計画の作成には至っていないため、来年度への課題となっている。

個別支援計画作成における他機関と連携してのケース会議の実施は重ねることはできているが、その都度計画更新するという事はできなかった。各グループホーム担当者と連携して、作成を計画的に行っていく必要性があった。

利用契約書においては、医療連携体制加算の追加があり修正を行った。支援マニュアルについては更新ができていないが、毎月のミーティングで支援方法を確認し、ホームにおいては記録を回覧し情報共有を行った。

オ 研修体制及び内容の充実について

内部研修（OJT）に関しては、グループワーク・ロールプレイの手法を使って、支援方法の気づきについて学んだ。また、海上療養所佐々木名誉院長の協力による「てんかん研修」や吉田製薬株式会社の協力による「感染防止対策研修」を行った。外部研修（OFFJT）の機会については、情報提供をすることや、本人の希望を考慮しながら代替えの世話人を確保できる体制を取るなどしたが、なかなか研修の参加には結びつかなかった。これについては、来年度どのようにしたら研修参加が出来るのかを検討していきたい。

カ 苦情解決の仕組みの周知徹底と適切な解決について

ポスターの掲示や各ハウスミーティング等での周知を行った。契約時に丁寧に説明し、相談機関が複数ある事を伝え、利用者や家族が問題を抱え込み長期化・深刻化しないように周知している。

8-3 法人の総合的な安全衛生対策の向上を図ることについて

ア 法人全体の防災・防犯対策の向上と地震・津波への備え

7月に旭市消防署予防課と旭第2分団3部消防団と連携し、より実用的な防災訓練を行った。ハウス周辺の水利確認と放水訓練を行い、有事における迅速な対応が行える体制づくりをしている。また、有事の際の連絡体制の訓練（171使用訓練）を行った。セコム

とは継続契約をしており、防犯シールを貼り防犯対策をしている。

地震・津波の対策として、非常持ち出し物品及び備蓄品の確認を行い補充を行った。ライフジャケットとターポリン担架を使用しての防災避難訓練を実施し、避難時の安全性の確保と避難時間の短縮が出来ている。また、防災無線の受信状態の悪い折戸ハウスⅠ・Ⅱについては、新たに野外アンテナ工事を実施した。

火災の対策としては、夜間想定訓練を行い、利用者のみでの避難をするホームへの協力方法の確認を行った。H27年4月より、消防法の改正があり、消防用設備等の基準の改正があるため、今後は順次整備を進めていきたい。

イ 利用者等安全対策の向上について

利用者1名が5月に行方不明となり、捜索時の各機関への連絡方法について改めて確認を行った。

7月に利用者1名が居室内で体調不良により倒れ入院となった。訪問看護事業所との連携や世話人の声かけをする機会を増やし、生活習慣の改善を促す事を共通確認し、再発を防止している。

ウ 安全運転対策の向上について

春と秋の全国交通安全週間期間中ののぼり旗の設置や6月の交通安全講習の実施など、年間を通し安全運転に関する注意喚起を行った。ドライブレコーダーを全車両に設置している。

年間を通して2件の車両事故があった。1件は公用車使用中、1件は通勤途中であった。両方共、見通しの悪い交差点での事故であり、利用する道路の変更を行った。

エ IT・情報管理対策の向上について

外部からのUSB接続をしないように徹底している。情報のバックアップについては、新たなハードディスクを導入した。

オ 地域のニーズに合わせたサービスの展開を図ることについて

地域から触法障害者の受け入れニーズがあり、千葉保護観察所等と連携し利用があった。コミュニケーションに課題のある利用者の受け入れについては、ワンルームタイプのグループホームで可能になった。海上療養所から長期入院患者の受け入れを行った。聖家族園より地域移行者を受け入れた。対馬ハウスのバリアフリー環境を利用し、重度心身障害のある人を受け入れた。

カ 職員の身分保障の向上を図ることについて

今年度は、身分保障の向上については大きく改善することが出来なかった。しかし、夜間勤務職員のあり方についての検討を行い、来年度から試験的に取り組むベースの検討は出来たため、これについては継続的に努力していきたい。

9 その他の報告事項

9-1 建物に係る修繕及び工事

(1) 大割ハウス 浴室・脱衣室改修、トイレ増設工事

大割ハウスの脱衣室や浴室、洗面所において、壁や床、浴槽なども経年による劣化が認められるだけでなく、日中でも室内が暗く、望ましい環境とは言い難い状態であった。

一方でホームの利用者の平均年齢も69歳と高齢になっており、毎日使用する場所であることから安全性も考慮し、改修を行うこととした。

26. 11. 19 ナザレの家あさひ経営会議起案

26. 12. 22 決裁

26. 12. 25 契約（株式会社伊藤工務店）

26. 12. 26 着工

27. 3. 16 完成

工事金額 1, 836, 000円（自己資金）

(2) 対馬ハウス トイレ改修工事

平成26年度4月、新たにグループホームが開設し、それまで対馬ハウスに居住していた利用者4名のうち3名が転居した。その後、車椅子を使用する女性利用者が2名新規に入居し女性3名が生活することとなった。

このことを機にこれまでの男女混合のホームから、女性だけのホームとして使用していくことにし、それに伴い、これまで設置していた男性用便器の撤去をはじめ、車椅子でも使用可能なトイレへ改修を行うこととした。

26. 11. 19 ナザレの家あさひ経営会議起案

26. 12. 22 決裁

26. 12. 25 契約（株式会社伊藤公務店）

26. 12. 26 着工

27. 3. 23 完成

工事金額 1, 490, 400円（自己資金）

(3) 横大道ハウス 屋根修繕工事

平成26年12月末に突風と思われる災害により、横大道ハウスの屋根瓦が崩れ落ちてしまい、雨漏りがするなどの被害が発生した。利用者の生活の安全と環境を改善するべく修繕工事を計画した。なお当該工事においては工事費用が3, 661, 200円で本来入札案件になるのだが、災害発生時の応急工事として第191回理事会において審議、了承していただき施工することとなった。

なお、資金について、横大道ハウスで加入していた建物保険により、保険料支払いの対象となり1, 840, 268円の保険金がおりました。

27. 1. 21 ナザレの家あさひ経営会議起案

27. 1. 28 第191回理事会

27. 2. 8 契約（株式会社伊藤工務店）

27. 2. 12 工事着工

27. 3. 23 完成

工事金額 3, 661, 200円

1, 840, 268円（災害保険料）

1, 820, 932円（自己資金）

10 1年のあゆみ

- 26. 4. 1 辞令交付式
- 4. 11 いちご狩り
- 6. 7 交通安全講習会
- 6. 21～22 第11回日本グループホーム学会福島大会
- 7. 8・9 全ホーム防災訓練
- 8. 9 夕涼み会
- 8. 18 てんかん講習
- 8. 26～9. 9 美作大学実習生1名（2週間）受け入れ
- 8. 31 ミュージックフェスティバル
- 9. 3 合同防災訓練
- 9. 28 第25回ロザリオ福祉まつり
- 10. 1～3 国サービス管理責任者研修
- 10. 8 創立記念行事
- 10. 22 野中ハイツI日帰り旅行（袋田の滝）
- 10. 27～12. 12 城西国際大学実習生2名（2週間）受け入れ
- 10. 29・30 大割ハウス1泊那須旅行
- 11. 4・6 県サービス管理責任者研修
- 11. 20 仲町ハウス日帰り旅行（養老溪谷）
- 11. 27 千葉県監査
- 12. 2 感染防止対策研修
- 12. 6 障害者週間行事
- 12. 27 もちつき大会
- 27. 1. 4 新年挨拶会
- 1. 26 虐待防止研修
- 2. 11 千葉県障害者グループホーム大会
- 3. 3・5 全ホーム防災訓練
- 3. 4 合同研修会
- 3. 10・11 サービス管理責任者フォローアップ研修
- 3. 15 全国障害者芸能フェスタ
- 3. 23～27 美作大学実習生6名（1週間）受け入れ

Ⅱ 利用者の概要

1 ナザレ家あさひ

1-1 利用者の平均年齢

53.5歳

1-2 日中活動の状況

就労 3人、生活介護施設 17人、就労継続B型施設 14人、
高齢者デイサービス 1人、その他 43人

移動支援 15人、行動援護 2人、重度訪問介護 4人、
通院介助 1人

1-3 出身地の状況

旭市 23人、市原市 1人、香取市 2人、匝瑳市 6人、山武市 3人、
千葉市 2人、銚子市 14人、東金市 1人、東庄町 1人、成田市 1人、
船橋市 2人、松戸市 1人、四街道市 1人、
東京都（江東区 1人、渋谷区 1人、台東区 1人、江戸川区 1人、中央区
1人、板橋区 1人、八王子区 1人）

茨城県 1人、横芝光町 1人、大網白里市 1人、習志野市 1人、
袖ヶ浦市 1人、茂原市 2人、勝浦市 1人、市川市 2人、芝山町 1人
多古町 1名、埼玉県 1名

計 31区市町

1-4 障害支援区分

非該当 3人、区分1 1人、区分2 21人、区分3 19人、
区分4 15人、区分5 10人、区分6 9人

平均障害程度区分 3.42

1-5 入退去の状況

入居 10名

自宅より 3名

病院より 5名

他施設より 2名

退去 0名

2 ホーム別概要

2-1 野中ハイツI

(1) 利用者の年齢

42歳 1人、62歳 1人、63歳 1人、64歳 1人、70歳 1人

平均年齢 60.2歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 2人、その他3人

- (3) 出身地の状況
旭市 3人、銚子市 2人
 - (4) 障害支援区分
区分2 3人、区分3 2人
- 2-2 野中ハイツⅡ
- (1) 利用者の年齢
25歳 1人、50歳 1人、57歳 2人、59歳 1人
平均年齢 49.6歳
 - (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1名、その他 4人
 - (3) 出身地の状況
旭市 1人、銚子市 2人、匝瑳市 1人、袖ヶ浦市 1人
 - (4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 2人、区分4 1人
- 2-3 若衆内ハウス
- (1) 利用者の年齢
28歳 1人、40歳 1人、47歳 1人、65歳 2人
平均年齢 49歳
 - (2) 日中活動の状況
その他 4人、就労継続B型施設 1人
 - (3) 出身地の状況
旭市 1人、東庄町 1人、茂原市 1人、芝山町 1人、銚子市 1人
 - (4) 障害支援区分
非該当 1人、区分2 2人、区分3 1人、区分4 1人
- 2-4 横大道ハウス
- (1) 利用者の年齢
35歳 1人、43歳 1人、48歳 1人、52歳 1人、56歳 1人
59歳 1人
平均年齢 48.8歳
 - (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 4人、生活介護施設 2人
 - (3) 出身地の状況
旭市 4人、銚子市 2人
 - (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 3人、区分5 1人

- 2-5 中川ハウス
- (1) 利用者の年齢
38歳 1人、44歳 1人、58歳 1人、64歳 1人
平均年齢 51.0歳
- (2) 日中活動の状況
生活介護施設 3人、その他 1人
- (3) 出身地の状況
香取市 1人、匝瑳市 1人、山武市 1人、船橋市 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 2人、区分6 2人
- 2-6 萩園ハウス
- (1) 利用者の年齢
38歳 1人、39歳 1人、49歳 1人、67歳 1人
平均年齢 48.2歳
- (2) 日中活動の状況
就労 1人、生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、四街道市 1人
- (4) 障害支援区分
区分4 2人、区分5 1人、区分6 1人
- 2-7 東足洗ハウス
- (1) 利用者の年齢
39歳 1人、53歳 1人、62歳 1人、69歳 1人、80歳 1人
平均年齢 60.6歳
- (2) 日中活動の状況
生活介護施設 5人
- (3) 出身地の状況
旭市 1人、匝瑳市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、東金市 1人、
- (4) 障害支援区分
区分4 3人、区分6 2人
- 2-8 西足洗ハウス
- (1) 利用者の年齢
37歳 1人、56歳 2人、75歳 1人
平均年齢 56.0歳
- (2) 日中活動の状況
就労1人 その他 3人

(3) 出身地の状況
山武市 1人、銚子市 1人、成田市 1人、船橋市 1人

(4) 障害支援区分
区分1 1人、区分3 3人

2-9 広原ハウス

(1) 利用者の年齢
38歳 1人、63歳 1人、66歳 1人、67歳 1人
70歳、1人
平均年齢 60.8歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人

(3) 出身地の状況
旭市 1人、銚子市 2人、市原市 1人、習志野市 1人

(4) 障害支援区分
区分2 3人、区分3 1人、区分4 1人

2-10 大割ハウス

(1) 利用者の年齢
43歳 1人、63歳 1人、75歳 1人、78歳 1人、86歳 1人
平均年齢 69.0歳

(2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人

(3) 出身地の状況
旭市 1人、東京都 3人、茨城県 1人

(4) 障害支援区分
非該当 1人、区分2 2人、区分3 1人、区分4 1人

2-11 対馬ハウス

(1) 利用者の年齢
24歳 1人、53歳 1人、62歳 1人
平均年齢 46.3歳

(2) 日中活動の状況
生活介護施設 3人

(3) 出身地の状況
旭市 3人

(4) 障害支援区分
区分5 2人、区分6 1人

2-12 下立ハウス

- (1) 利用者の年齢
36歳 1人、44歳 1人、56歳 1人、
66歳 1人、84歳 1人
平均年齢 57.2歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人、香取市 1人、旭市 1人、匝瑳市 1人
横芝光町 1人
- (4) 障害支援区分
区分3 2人、区分4 2人、区分5 1人

2-13 生沼ハウス

- (1) 利用者の年齢
20歳 1人、24歳 1人、64歳 1人
平均年齢 36歳
- (2) 日中活動の状況
就労 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
大網白里市 1人、旭市 1人、松戸市 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 1人、区分5 2人

2-14 矢指ハウス

- (1) 利用者の年齢
41歳 1人、50歳 1人、55歳 1人、64歳 1人
平均年齢 52.5歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型 1人、生活介護施設 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
旭市 2人、銚子市 1人、茂原市 1人
- (4) 障害支援区分
区分4 1人、区分6 3人

2-15 小割ハウス

- (1) 利用者の年齢
28歳 1人
平均年齢 28.0歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型(週1日午前中のみ) 1人
- (3) 出身地の状況
銚子市 1人
- (4) 障害支援区分
区分5 1人

2-16 仲町ハウス

- (1) 利用者の年齢
57歳 1人、66歳 2人、69歳 1人、71歳 1人
平均年齢 65.8歳
- (2) 日中活動の状況
その他 5人
- (3) 出身地の状況
勝浦市 1人、市川市 2人、東京都 2人
- (4) 障害支援区分
区分2 2人、区分3 3人

2-16 折戸ハウスI

- (1) 利用者の年齢
21歳 1人、46歳 1人、54歳 1人、78歳 1人
平均年齢 49.7歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 2人、その他 2人
- (3) 出身地の状況
多古町 1人、東京都 2人、埼玉県 1人
- (4) 障害支援区分
区分2 4人

2-16 折戸ハウスII

- (1) 利用者の年齢
28歳 1人、30歳 1人、42歳 1人、58歳 1人、64歳 1人
平均年齢 44.4歳
- (2) 日中活動の状況
就労継続B型施設 3人、その他 1人、生活介護施設 1人

- (3) 出身地の状況
多古町 1人、東京都 2人、埼玉県 1人
- (4) 障害支援区分
非該当 1人、区分2 2人、区分3 2人

Ⅲ 支援の概要

1 日課等

利用者個々の状況に合わせて、以下の支援の提供を関係者と協力しながら行った。

- (1) 利用者に対する相談
- (2) 食事の提供
- (3) 健康管理・金銭管理の援助
- (4) 余暇活動の支援
- (5) 緊急時の対応
- (6) 職場等との連絡・調整
- (7) 財産管理等の日常生活に必要な援助
- (8) 食事や入浴、排せつ等の介護等
- (9) 体験利用

2 部門別報告

2-1 管理者・サービス管理責任者

特定相談支援事業所と連携を行い、サービス等利用計画がより利用者のニーズに沿うように情報提供を行った。モニタリングなどを通して、生活の課題があった場合には、市町村・家族・関係機関と連携しケース会議を実施し、他職種チームアプローチで情報の共有と問題解決を行った。また、複数の視点で入居者の支援を検討するようになり、支援方法の選択肢が増えた事や、外部からの支援の評価を得る機会となった。

重症心身障害のある人や医療的ケアのある人が利用できるホームが開設され、他法人の訪問看護の利用や海上療養所との医療連携体制を整備している。

ワンルームタイプのグループホームを開設し、コミュニケーションに課題のある障害のある人の受け入れを行った。

2-2 世話人・生活支援員

月1回の世話人会議において、事務連絡等の情報提供後に短時間ではあるが研修を行っている。

職員の人数も多くなり、職員間のコミュニケーションが徐々に難しくなっている。しかし、コミュニケーション能力向上が支援の向上に大きく関わっていると考えるため、今後はミーティング等を通して深めていきたい。海上療養所連絡会、国保旭中央病院連絡会、個別のケース会議などに参加し、日々の支援の向上に努めた。

外部研修の必要性を伝え取り組んでは来たが、あまり参加が出来なかった。今後は、勤務体制上出にくい職員もいるため、参加出来る環境づくりに努めたい。

2-3 事務員

常勤、非常勤各1名で業務を行っていたが、非常勤の退職に伴い、1月から常勤職員を新規で雇用することとなった。

利用者の金銭管理について、マニュアルに従い事務員、支援員、世話人の連携により行っていたが、現金が紛失するという事例が生じてしまった。このことについては直ちにスタッフ全員で、原因の究明と対策を考え、より一層の注意を払うこととした。

今年度新たに公用車（車椅子1台を乗車できる軽タイプの福祉車両）を整備した。このことについては、利用者、職員の数の増加に伴う車輛不足と、整備済み

のリフトカー（車椅子 4 台乗車可能）が、その大きさにより行先や運転者が限定されてしまうこともあり、整備をすることとなった。この整備により、車椅子使用の利用者はもちろん、他利用者に対しても行動範囲が広がるなど効果があった。

グループホームの建物や設備においては、必ずしも計画通りとはいかなかったものの、概ね遂行できたと考えている。しかし各ハウスの状態において、この先修理・修繕は大なり小なり必須であり、また横大道ハウスのように自然災害による修繕にも備える必要があることから、日頃から各ハウスの建物や設備の状況の把握に努めるとともに、積立金を含む予算の確保に引き続き努めていきたい。

折戸ハウスⅠ・Ⅱの開設に伴い、定員が 82 名、年度途中には更に 1 名増員し 83 名になると共に、職員についても 40 名を超える規模になった。また共同生活援助への一元化、新規会計基準への移行など新たなことへ取り組むことが多かった。利用者に係ることでは、共同生活住居使用料の計算や金銭管理など、職員関連では勤怠の処理など、担当職員がわずかな期間で行わなければならない業務もあり、よりスムーズ且つ確実に業務を遂行できるよう日頃から報告・連絡・相談の徹底に努めていきたい。また利用者の対応についても、より良いコミュニケーションがとれるよう努力していきたい。

2-4 野中ハイツⅠ

年齢的にも高齢の方が増えてきていることもあり、海上療養所との医療連携体制や訪問看護を利用し、病状の変化に対応できる体制を整えている。

月に一度、利用者が行きたい所を決めて外食・外出をすることを全員が楽しみにしており、継続して行かれるよう調整をしている。ロザリオ福祉祭りでは全員がふれあい動物園の受付を担当した。

利用者 1 名が外出時に他者とトラブルになる出来事があった。

2-5 野中ハイツⅡ

怠薬が原因での体調の乱れが見受けられた利用者が 2 名いたため、薬の管理について必ず職員が目の前で確認することとしたことで改善されたが、今後は自己管理での服薬が出来るよう促していきたい。1 名については、情緒不安定になることが多く、メンタル面での支援が必要なため、今後も継続的に支援していきたい。

日常些細なことで口論になったり調子を崩してしまう利用者がいるため、その都度相談に乗ったり気分転換ができるよう支援を行っている。

2-6 若衆内ハウス

4 月より入居者が 5 名になり、朝食希望者 2 名に提供している。利用者 1 名は楽器を習い、デイケアのメンバーとミュージックフェスティバルに演奏発表をしている。今後も続けられるように支援していきたい。

喫煙については、場所を設けて他所で喫煙しないように促していきたい。

今年度末より、新しい通所先に行き始めた利用者さんもいるため、続けていけるように支援していきたい。また、新薬治療のため、2 月頃より入院中の利用者さんがおり、来年度はじめに退院を予定している。今後は定期的な通院治療が必要になるため、病院スタッフと連携しながら支援していきたい。

2-7 横大道ハウス

一時レスパイトを含め7名の利用者が入居している期間があった。うち1名はワンルームタイプのグループホームへ引っ越した。夕刻より夜にかけて外出をする利用者もいるが、事故のないよう関係者と連携し、支援を行っていきたい。

風災による、屋根修繕工事を実施した。

2-8 中川ハウス

重度知的障害のある人が入居しており、複数の支援者や事業者が関わっている事から、毎月のミーティングや、日中活動先との連絡会において情報共有し支援を行った。また、世話人の支援方法の違いによって、利用者が混乱をしないように確認を行った。身体障害のある人がADLの低下によって、転倒する機会が増えており、見守りを意識して行っている。ヒヤリハットの報告件数が多いため、情報を共有し、再発防止に継続して取り組んでいく必要がある。

2-9 萩園ハウス

生活の組み立てに関しては、ヘルパーを有効活用している。そのうち1名は、週1回ヘルパー同行でプール教室に通っている。来年度以降も運動とストレス解消の場として利用できるように引き続き支援していきたい。その他の利用者もヘルパーやデイケア、地域のイベントに参加するなど、地域との関わりを大切にしている。

高齢化した利用者や訴えが少ない利用者もいるため、体調の変化にこちらが気付くようにしていきたい。また、体調を崩した場合には、病院や通所先等と連携をとり、対応していきたい。

2-10 東足洗ハウス

利用者1名が高齢であり、心身の状態変化について医療機関や日中活動先と連携して、状態確認を継続して行っている。新たに聖家族作業所連絡会などで情報共有も開始している。世話人が複数名いるので、支援方法の確認をミーティングで行い、支援方法のばらつきをなくしている。ミュージックフェスティバルに参加するなどして、地域との交流をしている。

2-11 西足洗ハウス

利用者4名が一緒に生活を初めて9年半が経過した。近隣住民との関係は利用者が挨拶や日常的な会話を積極的に行えており、良好である。利用者間関係は良好ではあるが、利用者の中には、精神症状に左右されて相手の症状に疲れてしまう事もあるため、世話人によるフォローが必要であった。また、交友関係の広い利用者については、課題があれば確認し本人と解決をしている。月一回の食事会・外出を継続できている。

2-12 広原ハウス

街中のグループホームであり、徒歩10分位で大型スーパーへ行くことができる環境が整っている。利用者同士の些細な争いがあるが、その都度解消に努めている。体調を崩した人が何名かいたが、病院スタッフ、訪問看護、ご家族等の協力を得て生活を維持している。

2-13 大割ハウス

今年度も、ハウス全員で栃木県的那須へ一泊旅行に行くことが出来た。事業所の中でも、最高齢の利用者もいるが、今後も出来る限り楽しい思い出を作れるよ

う支援をしていきたい。

また、今年度は浴室・脱衣室・洗面所・トイレの改修を行うとともに、トイレについては1箇所増設工事も行った。今後も、住環境の整備には努めていきたい。

2-14 対馬ハウス

今年度より女性4名定員で運営している。新たな利用者と世話人でスタートをしたこともあり、支援者間で情報共有し支援を行った。世話人の努力もあり、ほぼ全介助だった利用者が、歩行が可能な状態に回復している。重症心身障害のある利用者も家族や訪問看護と連携し、体調を大きく崩すことなく暮らしている。

車いす利用者対応のため、トイレ・洗面所の改修を行った。

2-15 下立ハウス

頸椎症の利用者は、ほぼ全介助になっている。少しでも可能性を見つけ好転するよう努めているが、依存的傾向が強く、自分で身体の状態を改善しようとする意欲がないため、継続して居宅介護事業者、訪問入浴事業所や医療機関と連携して改善に努めている。

クロザリルの新薬投与をしている利用者が、時々服薬を拒否することがある為、病院スタッフと協力をしながら支援している。体調がいい時は就労継続B型事業所へ通えるようになってきたが休みがちなので継続できるよう支援していきたい。

精神症状の悪化により、ホーム内の利用者間でトラブルになる機会があり、病院関係者と連携して継続対応を行っている。

防災対策として、防災訓練において消防署の立ちあいを下に行い、喫煙をしている利用者へ火の取り扱いについて注意喚起を行った。

2-16 生沼ハウス

3名定員の女性のグループホーム。身体障害をもつ50代の利用者は、積極的に散歩をして運動する姿がみられる。また、街中にあるグループホームということを生かしてコンビニなどへ買い物に行くなどして生活している。

一室あいていた部屋に20才の女性が入居された。市川の病院へ通院の為、ヘルパーの協力を得て通院している。日中活動については、海上療養所のデイケアんと連携して、情報共有を密にして支援を行っている。

2-17 矢指ハウス

世話人の変更もあり、利用者のメンタルが不安定になる機会があった。利用者の日中活動場所への参加が継続できるように、日中活動場所で本人を交えての話し合いや2ヶ所の日中活動先を利用するなどして対応をしている。ミーティングにおいては、支援方法や仕事内容の確認を行い、昨年度よりも世話人一人一人の連携が出来るようになっている。精神症状の変化についても、海上療養所の主治医と連携し、迅速な対応をとり悪化を防いでいる。入居者間の騒音問題があり、一部防音カーテンを設置した。

2-18 小割ハウス

自分の気持ちを言い表すことが苦手な利用者が入居している。フラッシュバックにより入浴中に怒鳴り声をあげたり、物を壊してしまったことが何度もあった。また、ヘルパーと外出時に突発的な出来事に対応が出来ず他者に怪我を負わせてしまう事があった。その後、外出は男性を含めた2名体制で行っている。

作業所へは、週1回休むことなく、通うことができていることについては、関係者も本人を評価している。来年度も、注意深く見守り、安心した生活が継続できるように支援していきたい。

2-19 仲町ハウス

生活が慣れてきたのに伴い、食生活や入浴の減少など生活リズムが大きく崩れてしまった。うち1名は年度末に入院し、治療している。糖尿病や高脂血症などの内科疾患を持つ利用者がほとんどだが、運動もせずに高カロリーな食事を摂る事が続いている。

その現状を立て直すべく、通院や訪問看護の回数を増やしたり、デイケアに通うように促したり等、病院スタッフの協力を受けながら支援していきたい。

2-20 折戸ハウスⅠ

4月1日から開設したワンルームと3Kを利用したグループホーム。ワンルームの環境を利用してレスパイト、体験利用を有効に活用できた。利用者の一人一人の生活能力には大きな違いがあり、個別に対応できるように関係者と協力して支援を継続している。

来年度は個別支援計画をもとに、今年度よりも個々の生活が落ち着いた暮らしになるように環境を整えていきたい。

新規開設により新たに4名の入居が、精神科病院、通過型グループホーム等からあった。

2-21 折戸ハウスⅡ

折戸ハウスⅠと同様4月1日、対馬ハウスから移行した3名と新たに2名（在宅・精神科病院より）を加えて、5名での開設になった。ワンルームタイプのため、かなり自立心が芽生え「自分のことは自分でする」ことを目標に頑張っている。また、5名全員日中活動をしている。

IV 運営管理の概要

1 会議、委員会

毎月1回、下記の会議、委員会を行った。

- ・経営会議
- ・施設・事業所長会議
- ・法人グループホーム運営会議
- ・世話人会議
- ・各グループホームミーティング
- ・海上寮地域生活支援連絡会（毎週金曜日）
- ・旭中央病院連絡会
- ・地域生活支援会議
- ・総合安全対策委員会
- ・海匠世話人会議
- ・海匠設置者会（年2回）
- ・あい支援センター連絡会
- ・聖家族作業所連絡会
- ・その他、必要に応じて、ケース会議、調整会議を行う

2 地域との連携（交流）

2-1 行事

地域住民との連携については、野中地区の行事参加やもちつき大会において黒潮会の協力を頂くなど、交流の機会を継続的にもっている。

萩園ハウス 町内会活動（祭り・海岸清掃等）

若衆内ハウス 町内会活動（町内清掃・区民会館清掃等）

横大道ハウス 町内会活動（町内清掃等）

野中ハイツⅠ 町内会活動（町内清掃等）

野中ハイツⅡ 町内会活動（町内清掃等）

下立ハウス 町内会活動（町内清掃等）

対馬ハウス 町内会活動（町内清掃等）

大割ハウス 町内会活動（町内清掃等）

矢指ハウス 町内会活動（町内清掃等）

2-2 ボランティア

黒潮会 もちつきボランティア

城西国際大学 学生3名 もちつきボランティア

有志ボランティア 8名

2-3 見学者

26. 4. 10 海上寮療養所 入居希望者

5. 9 入居希望者

5. 10 入居希望者

7. 8 トレント精神科医 当事者

7. 17 入居希望者

8. 22 みんなの家 入居希望者

26. 9. 12 海上寮療養所 入居希望者

- 9. 18 海上寮療養所 入居希望者
- 10. 29 東京大学市民後見人
- 11. 12 海匠ネットワーク 入居希望者
- 27. 3. 4 入居希望者
- 3. 25 東総就業センター 入居希望者
- 3. 26 見学者3名
- 3. 31 匝瑳市関係者 6名

その他、相談事業所、病院関係者、グループホーム利用希望者等に対して、随時見学案内を行った。

2-4 実習生

- 26. 8. 26～ 9. 9 岡山県美作大学 1名
- 26. 10. 27～11. 8 11. 25～12. 8 城西国際大学 2名
- 27. 3. 23～ 3. 27 岡山県美作大学 6名

3 防災、緊急時の対策

3-1 総合安全対策委員会

毎月の重点項目について、世話人会議・ミーティング等で委員会で配布される資料を配布するなどして周知を行った。主な内容としては、4月賃貸契約の折戸ハウスⅠ・Ⅱの自動火災通報装置及び防火扉の修理を貸主に行ってもらった。7月旭市消防署予防課と旭第2分団3部消防団と協力して防災訓練を行い、ハウス周辺の消火栓の確認を行った。平成27年2月消火器使用期限の点検・買い替えを行った。

3-2 防災訓練・防災対策

- 26. 7. 8・9 全グループホーム防災訓練
- 26. 9. 3 合同防災訓練
- 27. 3. 3・5 全グループホーム防災訓練

4 福祉サービスの向上

平成25年度福祉サービス共通基準自己評価結果に基づいた改善計画についてここ数年、課題として挙がっている同性介助の問題に関しては、今年度も抜本的には改善するには至らなかった。この課題に関しては、グループホームの環境と職員配置上、なかなか難しいことはあるが、今後も考えていきたい。

5 権利擁護

一昨年度から引き続き、今年度も身近に起きうることとしての研修・ディスカッション等を行った。また、今年度は1月に野口専務にも研修を行っていただき、職員全員にとってはまた日頃感じることは違った気づきを得ることも出来た。

特に、閉鎖性が高くなる可能性の高いホーム支援においては、職員自身の自己研鑽と外部への風通しの良さが大事なるため、今後もその両方に力を入れながら取り組んでいきたい。

6 苦情解決

苦情受付・解決件数 4 件

仲町ハウス近隣住民より ゴミの出し方について 1 件

横大道ハウス 利用者への支援方法について 1 件

若衆内ハウス 近隣住民への騒音について 2 件

7 情報公開

ホームページの開設を行い、随時更新を行っている。

8 職員の動向

8-1 職員の異動

26. 4 採用

26. 6 退職

26. 7 採用

26. 7 採用

26. 7 退職

26. 8 採用

26. 9 採用

26. 1 採用

27. 1 退職

27. 2 退職

27. 2 採用

27. 3 退職

27. 3 退職

27. 3 退職

8-2 休暇等の状況

	人数	年間発生日数	取得日数	半期平均取得日数	取得率 (%)
常勤職員	5	158.0	48.80	9.8	30.9%
(昨年度)	(4)	(153.0)	(23.63)	(2.5)	(15.4%)
非常勤職員	32	657.50	434.70	13.6	66.1%
(昨年度)	(26)	(560.80)	(346.47)	(6.4)	(61.8%)
合計	37	815.50	483.50	13.1	59.3%
昨年度	(30)	(713.80)	(371.03)	(12.4)	(52.0%)

非常勤職員は前年度から目標である取得率50%を超えることができていたが、さらに4.2%の上昇が見られた。また、常勤職員においては未だ目標値には届かないものの、前年度比ではおよそ倍に増えており、この点は評価できる結果となった。今後も休暇の積極的な取得に向け取り組んでいきたい。

8-3 衛生管理

全職員を対象にO-157の保菌検査を実施し、11月にはインフルエンザの予防接種を行った。これらのことについては次年度以降も継続して実施していく。

また今年度は、インフルエンザやノロウイルスの感染予防対策として、製薬会社の方を講師に迎え研修を行った。

8-4 研修

- 26. 6. 7 交通安全講習会
 - 6. 21~22 第11回日本グループホーム学会福島大会
 - 8. 18 てんかん講習
 - 12. 2 感染防止対策研修
- 27. 1. 26 虐待防止研修
 - 2. 11 千葉県障害者グループホーム大会
 - 3. 4 合同研修会
 - 3. 10・11 サービス管理責任者フォローアップ研修

9 補助金・助成金

千葉労働局特定求職者雇用開発助成金	250,000円	(該当者1名)
東京都共同生活援助加算	622,210円	(江東区)
東京都共同生活援助加算	379,600円	(渋谷区)
障害者グループホーム運営費補助金	14,239,960円	(21市町村)

10 自立支援給付費請求額

訓練等給付費収入	154,202,344円
特定障害者特別給付費	9,057,629円
利用者負担金収入	66,736円
合計	163,326,709円

11 寄附物品 (敬称略)

	寄附者	寄附内容	寄附金額
1		米(90kg)	30,000円
2		米(60kg)	20,000円
3		米(30kg)	10,000円
4		米(50kg)	17,000円
合計			77,000円

V 資料

- 別紙1 職種別職員一覧表
- 別紙2 組織図